レポートNo.79
発行　営業部

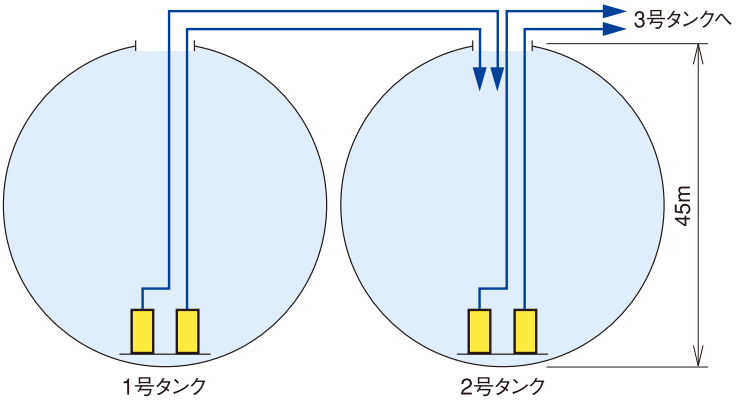
JOB REPORT

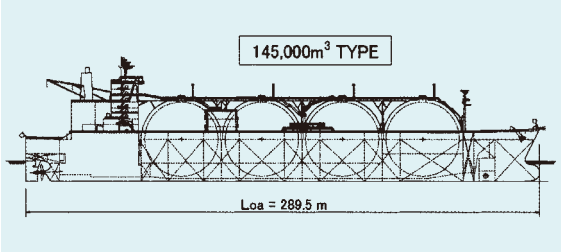
地球環境を守るお手伝い

2003年に納入した大形大水量ポンプU-215010A形4台の活躍現場を追うと、桜川ポンプが地球環境を守るお手伝いをしていました。

瀬戸大橋の四国入口にある川崎造船(株)坂出工場(旧川崎重工業)様でご採用いただいたポンプは、LNGタンカーの水密検査用として活躍していました。145,000m³船(トン数ではなく容量で表示)、全長289m、全幅49m、円形タンク(直径45m)が4～5基載っています。1船の建造には約1年かかり、LNGは−135℃で移送されます。このタンク内に図のように水中ポンプを2台+2台設置して、工業用水を注入し1基ずつ水密検査をします。1基のタンク排水には約24時間かかります。川崎造船様では、このLNG船3隻が建造開始時期をずらしながら建造されていました。(LNG=液化天然ガス、LPG=液化石油ガス)

このようにして完成したLNG船は、新聞記事にもあるように火力発電所等で地球環境を守る(CO_2削減)クリーンエネルギーの移送船として今後ますます必要とされています。





四国　四国新聞　2004年(平成16年)1月29日(木曜日)

四電坂出発電所

LNG導入CO₂削減へ

700億円投じ石油から転換

四国電力は二十八日、坂出市番の州町の坂出発電所に液化天然ガス(LNG)を導入すると発表した。四機ある発電設備のうち、二機の燃料を石油から切り替え、二〇一〇年度の稼働を目指す。同社がLNGを導入するのは初めてで、LNGの貯蔵、気化のための基地も併せて建設する。総事業費は約七百億円。同社は「二酸化炭素の排出削減対策に取り組むとともに、総合エネルギー企業としての基盤整備を図りたい」としている。

LNGは世界各地で豊富な埋蔵が可能。従来の石油・石炭系を使ったガスに比べて発電効率が高いほか、燃焼時に二酸化炭素などの発生量が少ないため、地球温暖化の抑制にもつながる。

LNGを導入するのは一号機と四号機。一号機は解体撤去して発電装置を新設、四号機は改造する。四号機は一〇年度、一号機は一一年度に運用を開始する予定。同社ではLNGへの切り替えに伴い、二酸化炭素の排出量を年間で約5%抑制できるとみている。

LNG基地は、同市番の州町のコスモ石油坂出製油所に建設する。今年六月をめどに同社とコスモ石油、四国ガスの三社が共同出資、基地の事業運営会社を設立。〇六年度に着工、一〇年度に運用を始める。

基地には、地上式としては国内最大級の十八万キロリットルのタンク一基と気化設備を新設するほか、LNG船を受け入れるためにコスモ石油が所有する既存の桟橋を改良、整備する。気化したガスは高圧ガス導管を使って坂出発電所に送る。

LNGを導入する四国電力の坂出発電所＝坂出市番の州町

水中ポンプ仕様

- ●形　　式　U-215010A
- ●電　　圧　440V
- ●出　　力　110kW　Y-△起動
- ●ケーブル　50m
- ●高水深対応
- ●内外面タールエポキシ塗装
- ●インペラ材質SCS13